



↑ ①カトリック松が峰教会

わかるかな？

左の写真は、宇都宮の大谷石文化を代表する建物であるカトリック松が峰教会ですが、どんなところが全国的にめずらしい建物になっているのでしょうか。

- ① 江戸時代に建てられた建造物であるところ。
- ② 巨大な地下室があるところ。
- ③ 二つの塔があるところ。
- ④ 教会なのに、お坊さんがいるところ。

2 おおやいし 大谷石文化が息づくまち 宇都宮Ⅱ……大谷石を使いこなす文化



②大谷石で造られた校門
←城山中学校
↓城山西小学校



③住宅や蔵の壁面に使用される大谷石



④大谷石の利用 ↑ピザ窯 ↑カフェに置かれた花器

建築・土木用資材としての大谷石の魅力

大谷石は、建築・土木用資材として古代から使われてきました。古代の下野国分寺の土台となる部分に使用され、近世の宇都宮城の改築では、城の石垣として使われたと言われてます。

現存する大谷石を利用した建物では、旧篠原家住宅やカトリック松が峰教会などが有名で、宇都宮の文化遺産、観光スポットとなっています。

また、最近では、大谷石が一般の家庭にも広まっており、住宅の壁面に使われたり、インテリアなどの小物やピザ窯などに使われたりするなど、市民の生活に溶けこんでいます。

皆さんの家の近くにも大谷石で造られた扉、大谷石が使われた建物がないでしょうか。市内を歩いて、大谷石を見つけてみましょう。

松が峰教会は、小さい頃に行ったことがあるけど、とても大きな建物だったよ。

私の家には、大谷石でできた倉庫があるよ。中に入ると少しひんやりするよ。

大谷石は、なぜ建築・土木用資材としてよく利用されるのかな？

伝統的な建造物と大谷石

宇都宮には、大谷石を用いた伝統的な建造物があります。それらの魅力を発見してみましょう。



伝統的な大谷石の建物でもそれぞれ特徴があるんだね。

1 旧篠原家住宅 (国指定重要文化財)

篠原家は、江戸時代に醤油を作っていました。主屋の外壁は、大谷石張りとなっており、三つある蔵も「積み石」ではなく、「張り石」で造られています。



積み石と張り石では、どちらが先にできた工法なのだろう？



2 小野口家住宅 (国登録有形文化財)

小野口家は、江戸時代に庄屋を務めました。今も残る大谷石建造物は、江戸時代から大正時代にかけて造られたもので、建物ごとに時代が違います。

3 屏風岩石材 石蔵 (栃木県指定文化財)

屏風岩石材は、近代における大谷石産業の発展に貢献しました。写真に写る2棟の石蔵のうち、左側の西蔵は居住用、右側の東蔵は倉庫として利用されていました。ともに、明治時代に始まった積み石造りで、窓回りの装飾などに洋風の装飾が見られます。

4 大久保石材店

写真に写る建物は、自然の岩山をくりぬいて造られ、応接室として使われていました。その左側奥には、昭和に造られた石蔵が建ち、西洋の歴史建築を思わせる入口のデザインが目を引きます。

張り石と積み石の歴史

はじめは「張り石」による蔵や建物が主流でしたが、大きくて重い石材を大量に輸送できる鉄道の発達により、「積み石」の蔵や建物が次第に広がっていきました。

宇都宮の市内中心部で、「積み石」の蔵や建物が広まるのは、1896(明治29)年に宇都宮軌道運輸株式会社が設立され、人車軌道(人が客車や貨車をおす鉄道)が整備されてからになります。



↑ ①旧篠原家住宅の石蔵

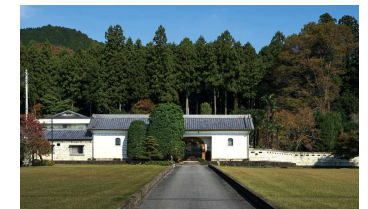
ことば

積み石

ブロック状の石を積み上げる工法のこと。

張り石

薄く切った石を建物の外側に張り付ける工法のこと。



↑ ②小野口家住宅



↑ ③屏風岩石材 石蔵



↑ ④大久保石材店

学習問題

宇都宮に見られる大谷石は、どのように利用されているのだろうか。

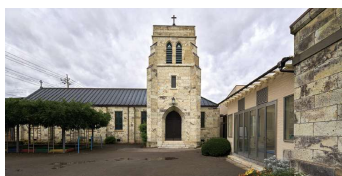




↑ ①旧帝国ホテル・ライト館



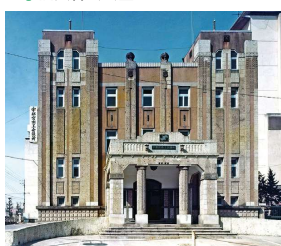
↑ ②カトリック松が峰教会



↑ ③宇都宮聖ヨハネ教会聖堂



↑ ④旧大谷公会堂



↑ ⑤旧宇都宮商工会議所



↑ ⑥南宇都宮駅舎

▶ 近代建築と大谷石

アメリカの建築家フランク・ロイド・ライトの設計による旧帝国ホテル本館、通称「ライト館」は、鉄筋コンクリートと大谷石を組み合わせる新しい工法で建てられました。1923(大正12)年の落成式の直前に関東大震災が起り、東京では多くの建物が倒壊し、火災にも見舞われましたが、ライト館は、ほとんど無傷で済みました。そこで、この工法の良さが認められ、近代建築に大谷石が使われるようになりました。



大谷石が全国に広まったきっかけになった、帝国ホテルは、どんな建物だったのかな? → p.78

1 カトリック松が峰教会 (国登録有形文化財)

スイス人建築家によって設計された日本ではめずらしい二つの塔を持った建築です。旧帝国ホテルで使われた大谷石と同じ採石場から切り出された大谷石が使われました。

2 宇都宮聖ヨハネ教会聖堂 (宇都宮市指定文化財)

鉄筋コンクリート造りの教会で、外壁全体が「張り石」で覆われています。

3 旧大谷公会堂 (国登録有形文化財)

旧城山村の公会堂として建築されました。正面の4本の付け柱が特徴的で、柱には幾何学的な文様が彫りこまれています。

2023(令和5)年11月に大谷観光周遊拠点施設「大谷コネクト」の一部として整備され、建築当初の姿に復元されました。

4 旧宇都宮商工会議所

幾何学的な装飾が特徴の建物で、現在の中央郵便局の場所に建てられました。1979(昭和54)年に取り壊されてしまいましたが、現在は栃木県中央公園に玄関部分が復元保存されています。

5 南宇都宮駅舎

南宇都宮駅舎の壁は、「横張り腰壁」と「縦張り袖壁」という二つの壁が組み合わさっためずらしい建物であり、細かな工夫がされたデザインも見られます。



普段使っていた南宇都宮駅が、大谷石でできていたなんて知らなかったなー。



実際の建物を見てみたいなー。どこにあるか調べてみよう。 → p.80、81



詳しく調べてみよう!



▶ 大谷石建造物のまちなみ

宇都宮市内には、大谷石の石蔵や石垣、石塀など、大谷石を利用したものを、たくさん見つけることができます。自分の身近な所にある大谷石を探してみましょう。

1 農村集落に見られる大谷石の光景

宇都宮の農村部では、道路に沿うように水路が流れ、それに沿うように石蔵や石塀、小さな小屋から、離れと納屋が一体になった大規模な建物まで多種多様な大谷石による建造物が立ち並んでいます。道路側に多い大谷石の石蔵は、塀と一体化して防火壁の役割も担ってきました。

2 東武宇都宮線沿線に見られる大谷石の光景

東武宇都宮駅のプラットフォームは、現在も大谷石で守られた壁の上にあります。また、ここから線路と東京街道が交差するまでの一帯は、橋脚などの鉄道に関する建造物に大谷石が使われていて、全国でもめずらしい沿線風景が残されています。

3 吉野地域の石蔵・倉庫群

南宇都宮駅前の吉野地域には、大谷石でできた石蔵や倉庫がたくさん残されています。それらの建物は、レストランやスタジオなどにリノベーション(改修)され、現在でも活用されています。



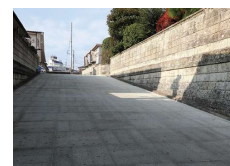
吉野地域の他にも、宇都宮にはたくさんリノベーションされた建物があるんだって。どんな魅力があるのだろう? → p.82、83

4 身近にある大谷石

皆さんが住んでいるまちにも、大谷石で造られたものを見つかることができます。自分のまちの大谷石を見つけてみましょう。



↑ ⑪二荒山神社の石垣



↑ ⑫星が丘の坂道



↑ ⑦上田集落



↑ ⑧芦沼集落



↑ ⑨東武宇都宮駅東側



↑ ⑩東武宇都宮線橋脚



↑ ⑬(上2点)吉野地域の石蔵・倉庫群

まとめる ひろげる



大谷石は、歴史的価値の高い住宅や教会のほか、一般家庭においても塀や倉庫などに利用されており、宇都宮の様々な場所で見られ、私たちの生活に溶けこんでいます。大谷石の特質を見抜き、使い続けてきた先人の知恵や思いは、私たちが未来へと受け継いでいきたい宇都宮の魅力の一つです。これからの大谷石の活用や大谷石文化の継承にはどのような未来があるのか考えてみましょう。

大谷石の可能性を広げた旧帝国ホテル・ライト館とは?



1 なぜ、旧帝国ホテル・ライト館が大谷石の代表的な近代建物に挙げられるの?

旧帝国ホテル・ライト館は、関東大震災の際に、倒壊や全焼を免れました。その要因は、素材と構造的特徴にあります。

それまでの大谷石建造物は、「木造・張り石」または「積み石造り」でしたが、ライト館では、「煉瓦の型枠に鉄筋を配してコンクリートを流しこみ、その外側に大谷石やスタレ煉瓦を張り固める」という工法が用いられています。これにより、地震にも火災にも強い大規模な建物が実現し、また、「構造と装飾を兼ねる外側の石や煉瓦」には、独特の斬新なデザインが打ち出されました。

設計したのは、アメリカの建築家フランク・ロイド・ライトです。ライト館に見る新しい工法とデザインは、大谷石の可能性を広げ、同時代とその後の大谷石建造物に大きな影響を与えました。



1 ライト館の外館



2 内館

2 ライト館の魅力とは?

ライト館の魅力は、平等院鳳凰堂(京都府宇治市)を踏まえて、水平性を強調し、多くの建物が連なる独自の日本的近代建築であること、そして、スタレ煉瓦、素焼きのタイル、金の釉薬を施したタイル、レリーフのあるコンクリート板など、様々な素材を効果的に用いているところです。

ライト館は、1967〜68年に取り壊しとなりましたが、一部が博物館明治村(愛知県犬山市)に移築・復元されています。なお、宇都宮市田下町のポケットパークにあるモニュメントは、ライト館玄関前の壺を、城山地区の石工さんたちが2006年に復刻したものです。



3 レリーフ

4 復刻されたモニュメント

3 大谷石とライト

ライト館の設計に際して、当初ライトは石川県産の「菩提石」を選びました。赤味がかかった硬い凝灰岩で、小さな穴があり、「蜂の巣石」の名でも知られています。しかし、産出量、採石場から東京までの距離、輸送手段、価格を考慮して、最終的には大谷石を選択します。

また、ライトは石屋さんを通して定型の石材を買うというこれまでの工事方法ではなく、工事を請け負った工務店が大谷の石山を丸ごと購入し、石工さんたちを雇い、貨物列車を確保するという方法で、大量の石を自由なデザインで工事することができるようにしました。ライト館のために拓かれた「トウヤ採石場」の跡は、城山地区では「ホテル山(岩)」と呼ばれています。



5 ホテル山(トウヤ採石場)

先人の知恵と工夫

安全な大谷石建築物を目指して

大谷石にとって試練が訪れた時もありました。一つは地震です。1949(昭和24)年に起こった今市地震の際には、大谷石を使った家屋が倒壊しました。倒壊した原因について調べてみると、大谷石自体ではなく、設計と施工に問題があることが分かり、耐震補修の講習会を催し、復興に貢献しました。

また、宅地ブームの際には、大谷石の擁壁の倒壊事故も多発しました。その際には、安全に大谷石を利用できる構法の開発に取り組み、より頑丈な大谷石の建物を建てられるよう努力を重ねました。さらに、より大谷石の価値を高めるため、大谷石の魅力的な質感を建物に生かすための工法が開発され、大谷石を生かしたデザイン性の高い建築物を作ることができるようになってきています。このように、先人たちの知恵や工夫により、大谷石は現在も優れた建材として、全国で利用されています。

大谷石建造物による食品の保存

大谷石の建造物は、食品の製造や保存にも利用されています。昔から、大谷石の蔵は地域の醸造業(日本酒・味噌・醤油)の生産現場や食品の保存庫として利用されてきました。大谷石の成分の中の天然ゼオライトには、水や植物の鮮度を保つ効果があるとされていますが、昔の人々もそのことを知っていて、利用していたのかもしれませんが。



1 青雫味噌蔵(令和元年撮影)

ことば

◆ゼオライト

ゼオライトとは、スポンジ状の小さな穴を持つ鉱石で、多数のマイナスイオンと強い遠赤外線を放出します。遠赤外線は食品の腐敗の進行やカビの発生をおさえ、鮮度を保ちながら熟成を進ませる効果があることが分かっています。



コラム

日本遺産と大谷石文化について詳しくなるう!

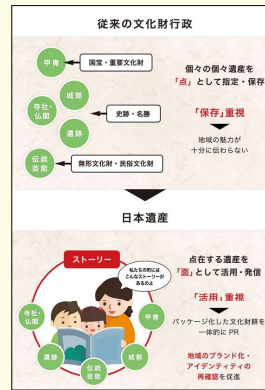
日本遺産ってなんだろう?

文化庁では、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産(Japan Heritage)」として認定し、ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の様々な文化財群を総合的に活用する取り組みを支援しています。

世界遺産登録や文化財指定は、いずれも登録・指定される文化財(文化遺産)の価値付けを行い、保護を担保することを目的とするものです。一方で日本遺産は、既存の文化財の価値付けや保全のための新たな規制を図ることを目的としたものではなく、地域に点在する遺産を総合的に活用し、発信することで、地域活性化を図ることを目的としている点に違いがあります。

大谷石文化は、なぜ日本遺産に認定されたの?

大谷石文化は、下の図のように主に五つのストーリーをもとに、地域にある遺産をつなげ、一つの魅力的なストーリーとしてまとめ発信したことが評価されました。大谷石というと大谷地域だけのものと思われがちですが、宇都宮市には、広く大谷石の文化が広がっており、それらの魅力的なものを一体的に捉え、PRしたことが日本遺産の認定につながりました。



1 「日本遺産」の目的

日本遺産「大谷石文化」公式HP



<p>STORY.1 石工が掘りだした巨大地下迷路</p> <p>大谷資料館</p>	<p>STORY.2 大谷石産業の歴史</p> <p>大谷石採石の様子</p>	<p>STORY.3 掘り出した石で築いた都市文化</p> <p>宇都宮大学庭園</p>	<p>STORY.4 農村の暮らしに溶け込む大谷石</p> <p>芦沼集落</p>	<p>STORY.5 凹が広がり、凸が生み出される宇都宮</p> <p>南宇都宮倉庫群</p>
---	--	---	--	--

1 栃木信用金庫 桜通り支店



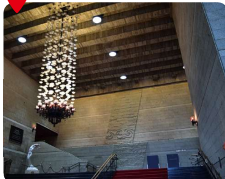
2 宇都宮聖ヨハネ教会



3 旧商会議所遺構



4 宇都宮市文化会館



5 吉野地域の石蔵・倉庫群



6 南宇都宮駅



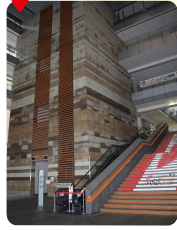
7 星が丘の坂道



8 上野本家住宅



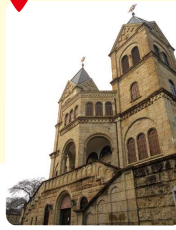
9 県庁



10 Dining 蔵 おしやらく



11 カトリック松が峰教会



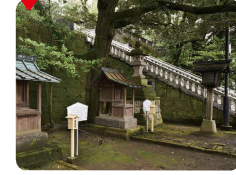
12 大谷石橋脚と東武電車



13 市役所南玄関前



14 二荒山神社



宇都宮に見られる代表的な大谷石の建造物

おおや いし



▲旧篠原家住宅

大谷石は、いろいろな建造物に使われているんだね。

実際に行って調べてみよう！



21 ライトキューブ宇都宮



20 JR宇都宮駅プラットフォーム



19 旧篠原家住宅



18 中川染工場



17 青源味噌



16 石の蔵



15 あさり川こみち



2 魅力あふれる宇都宮——大谷石文化が息づくまち 宇都宮II……大谷石を使いこなす文化

大谷石の建物を素敵にリノベーション！ 大谷石の建物の活用術

宇都宮市内には、大谷石でできた古い石蔵がありますが、最近ではその雰囲気を生かしてリノベーションをして、素敵なレストランやカフェとして活用されているケースが見られるようになってきました。古い石蔵の空間や、手掘り時代のつるはしの跡が残る質感が、若者にはおしゃれに感じるようです。



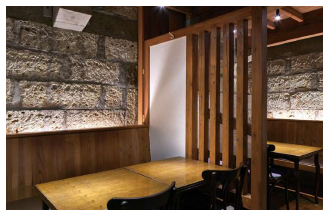
動画を
見てみよう！



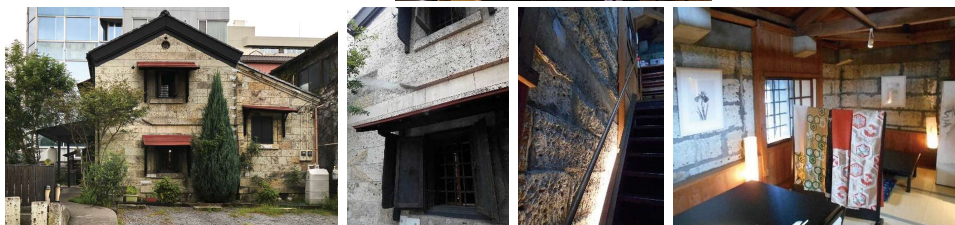
Dining 蔵 おしゃらく

元公益質屋の石蔵が素敵なレストランになりました。大谷石でできた建物全体の良さを生かしたレストランです。

イタリアでは、何百年も前に建てられた建物の良さを生かしたまちなみが見られますが、日本にはそのようなまちなみが少ないと感じていました。そんな時に、この建物を取り壊すかもしれないという話を聞き、「ぜひこの建物を再生して、後世に大谷石の建物の良さを伝えたい」という気持ちになり、この石蔵の再生に取り組むことになりました。古い建物を壊すことは簡単ですが、残すことは容易ではありません。耐震工事や防火設備の設置など、幾多の困難を乗り越えて、現在の姿にすることができました。中学生の皆さんには、古き良きものをどう後世に伝えていくのか、今あるものをどう工夫して活用していくのかということを考えてもらいたいです。



オーナー
菅野有美さん



STUDIO CASHA

元倉庫である建物を生かした写真店です。大谷石でできたお洒落な壁面をバックに、写真を撮ることができます。

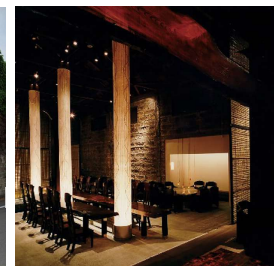


店長さんにインタビューをしたら、「宇都宮にゆかりのある大谷石の建物と元倉庫という大きな空間を使って、ゆっくりとくつろぎながら写真を撮ることができます。他にはない特別な空間を使って、素敵な思い出を残してほしいです。」と言っていました。



石の蔵

かつての食料倉庫が多彩なクリエイターの手でお洒落なレストランに再生されました。雰囲気を生かして結婚式を行うほか、大谷石の音響の良さを生かして、コンサートも行われています。



店長
早瀬貴志さん

宇都宮らしいものをお客様に提供したいと考えていたオーナーが、半ば放置されていたこの倉庫の利用を思いつきました。大谷石の魅力は、その表面の風合いで、それを引き出すための照明にはこだわっています。古き良き大谷石と様々な照明の技術のコラボレーションで魅せる大谷石の表情を楽しんでもらいたいですね。

県外のお客様が多くいらっしゃいますが、そのほとんどの方が、大谷資料館や松が峰教会にも見学にいらしていると聞きます。大谷石は魅力的なコンテンツですが、様々なコンテンツ同士をリンクさせて、その魅力を高めるための努力をすることも重要だと思います。

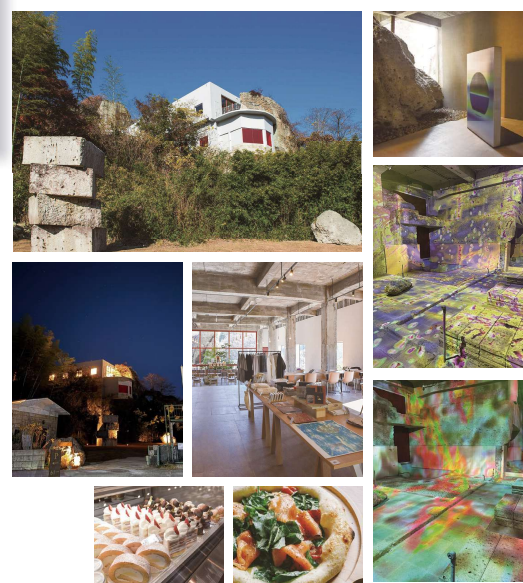


大谷グランド・センター

昭和期には、入浴や食事を楽しめる憩いの場として親しまれてきた建物が、大谷の新たな観光施設として生まれ変わりました。大谷石を活かした風情ある建物は、当時の面影を残した建物で、「食とアート」を楽しめる施設です。

この「大谷グランド・センター」がある場所は、地表にそびえ立つ石山から石を切り出す「露天堀り」の採石場がありました。その後、昭和後期に1人の石工によって建物が建てられたといわれ、1967年には石山と一体となった建物から眺望を楽しみながら、入浴や食事を楽しめる施設「山本園大谷グランドセンター」として開園し、観光バスにて多くの人が訪れ、賑わいをみせていました。

時代が変わり、建物から人が消えた平成時代を経て、現在。再び人が集うことを願い、「山本園大谷グランドセンター」という名を一部引き継ぎ、「大谷グランド・センター」としてオープンしました。「食とアート」にフォーカスした複合施設となっており、観光地「大谷」の新たな観光施設として多くの人に訪れていただき、この土地に愛される施設になってほしいと思っています。



代表取締役
井上 加寿子さん